



# 大森六中だより

令和4年 11月号  
大田区立大森第六中学校  
統括校長 菅野 哲郎  
TEL 3726-7155



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization

## 嬉しい気持ち

10月29日に開催した文化祭では、合唱発表会と演劇部と吹奏楽部の発表がありました。

私は挨拶の中で「そもそも自分の想いを表現することは本来楽しいことです。しかし、集団で表現することは難しい。なぜなら、それぞれの想いを調和させる努力が必要だから。だからこそ、鑑賞する人は、調和のとれた表現とともに、その表現から努力の積み重ねを感じ取ることで感動を覚えるのだと思います」と述べました。

いずれの発表も期待どおり、素晴らしく、感動しましたが、やはり数で圧倒する学年合唱では目頭が熱くなりました。そして、何より嬉しいのは、事後の作文などから、当日までの取り組みの中で、個々の生徒の心の成長が伺えることです。このことから学校行事の意義を再確認します。

文化祭が終わると連合学芸会の各種の発表が相次ぎます。

11月2日に開催された英語の部には2人の2年生の中村さんと佐藤さんが参加し、それぞれ2位と4位で2人共に入賞という優秀な成績を収めました。

また、同日の午後に開催されたダンスの部では、3300学級の生徒30名が参加しました。他校の参加が多くて13名という中で、その大人数と調和のとれた踊りが会場を圧倒しました。

11月8日に開催された音楽の部には、3年生有志40名が参加し、文化祭の学年合唱曲でもあった混成三部合唱曲「春に」を発

表しました。2日間の午前・午後の4部で開催されたその大トリを飾るにふさわしい歌声で会場を魅了しました。(ダンスと合唱の動画は学校ホームページから視聴いただけます)

11月11日に開催された演劇の部では、文化祭で上演した「真夏のサンタクロース」を熱演し、会場を沸かせました。

### 朝のあいさつで思うこと

毎朝7:45頃から8:20頃まで正門付近で生徒を出迎えています。そして心の中で(よく来たね。今日も一日頑張ろう。)と応援しながら、「おはようございます」と声を掛けています。そして多くの生徒が「おはようございます」と返してくれます。中には、私より先に声を掛けてくれる生徒もいます。特に嬉しいのは目を合わせて挨拶を交わしてくれる生徒です。なぜ嬉しい気持ちになるのか改めて考えてみると、それは私がここにいることを相手がしっかり認識してくれたと思えるからだと思います。逆に、たとえば家庭の食卓で話をしているときに、相手がテレビを見ながら「ふんふん」と、一応返事だけは返してくれる状況を思い浮かべれば、悲しい気持ちになるだろうと思います。

とはいえ、私が勝手に挨拶しているだけです。私の気持ちを押し量る必要はありません。ただ、嬉しい気持ちにさせてくれる人を心から応援したいと思うのは人情です。挨拶をすることで、応援してくれる人が増えることは幸福への近道です。

# 持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

## ブックトーク

4区合同ブックトーク交流会（墨田区立吾婦第二中学校、豊島区立西巢鴨中学校、板橋区立板橋第三中学校）に今年度図書委員会として参加しました。

テーマは「SDGs」です。本校から選ばれた生徒は自主的に手を挙げた二人です。オンラインではありませんでしたが、1校につき10分間の枠の中で、自校紹介と本校の2人がそれぞれ本を選び、本の内容と感想を語りかけました。自校紹介では、1年生の三浦君と冨田君で、ユネスコスクールでSDGsをさまざまな活動で取り上げていることをスライドで紹介しました。3年生の森本さんは「難民問題」を取り上げ、自分が小学生の時、難民の方の話を聞き、関心を持つようになり、本を2冊紹介して、現実問題起きていることと、未来への対策についての感想を話しました。1年生の福田さんは、食品ロスの問題を取り上げ、日本の現状と世界の状況の違いについて2冊取り上げ、日本では食品を余らせ、廃棄している量の多さの問題についてどう取り組むか、世界では、食糧危機に苦しんでいることの対比について矛盾を感じていると、感想を伝えることができました。他の区の中学生からはSDGsに関する本から自分の考えていることを語っていたり、SDGsとはどこにも書いていないが、SDGsで課題とした内容を扱っている本の紹介があったりと、充実した2時間でした。

国連広報センターの千葉氏が参加され、今回のブックトークについて、国連でこの取組を紹介したいとのこと、また、本校のSDGs 18, 19, 20番を評価していただきました。

今回の交流会で、同じ公立中学校の生徒が、SDGsという目標を達成するために、本や活字を通して意見交流できる機会をいただいたこと、とてもありがたかったと感じます。



## シビック・アクション



11月4日は3回目のシビック・アクションでした。今回は1、2年生の中で同じテーマを選択した者同士が集まり、専門家への質問を考える時間でした。インタビューの仕方を講師の森先生に教わり、質問を精査します。TVで記者会見をよく見ますが、インタビューの仕方一つで、聞きたい人の話をうまく聞き出せるかどうかは、インタビュアーの腕によります。国内第1線で活躍している人をお呼びするわけですから、恥かしい質問はしないようにしなければいけません。「先程も説明したように・・・」と言われることのないように、インタビューする内容を吟味します。表現する力と聞き取る力、批判的な思考力が問われる時間となります。



### インタビューの内容で気をつけること

- \* 調べればすぐに答えが見つかるような質問ではないこと。
- \* 専門家の意見を聞けば、自分の考えが広がりそうな質問であること。
- \* 問題について自分達が行うアクションのヒントになりそうな質問であること。

# 大田区立中学校連合行事

11月は令和4年度の連合行事で、六中の生徒が大活躍しました。

美術展(11/5~11)では、全部で67人の作品が池上会館に出展されました。作品名は1年生が「画家の一生を漢字一文字で表す」、2年生が「ドリンクデザイナーになろう」、3年生が「写真」です。他校の先生方も感心するほどの作品の数々。これからも頑張ってくださいね。

連合学芸会英語の部(大田文化の森)には中村夏帆さん(Self Esteem)と佐藤さゆりさん(Gender Inequality)が六中代表として出演しました。夏休み前から準備し、ALTの先生や他の先生方のご指導のおかげで、自分の伝えたいことを堂々と発表し、2位と4位に入賞しました。応援ありがとうございました。

連合学芸会ダンスの部(大田区民プラザ)には3300学級が出演しました。題名は、「Story of heros」、ウェーブをしたり跳んだり走ったりとクラス一体となって笑顔で踊り、会場を盛り上げました。

連合学芸会音楽の部(大田区民プラザ)では3年生有志が「春に」を披露しました。「この気持ちは何だろう」という思春期の悩みや戸惑い、そして喜びを見事に歌い上げました。会場全体に感動の輪が広がりました。

連合学芸会演劇の部(大田区民プラザ)では、文化祭に引き続き、「真夏のサンタクロース」を演じました。前半が明るく軽妙で観客を笑わせ、後半がシリアスで涙を誘い、感動しましたとお褒めの言葉をいただきました。

以上のように、たくさんの方が六中の代表として、工夫や努力を重ね、晴れの日を迎えました。みなさんは、六中の誇りです。

## <美術展>



## <英語の部>



## <音楽の部>



## <ダンスの部>



## <演劇の部>





# 令和4年度文化祭

さいせい  
彩晴

10月29日(土)に、本校体育館にて文化祭が開催されました。スローガンは「彩晴(さいせい)」。  
新型コロナウイルス蔓延以前の彩り豊かな文化祭を再生させたいという願いが込められたものです。  
迎えた本番では、限られた時間の中で精一杯の努力を重ねてきた生徒たちの合唱が晴れやかに響き渡りました。同日には吹奏楽部と演劇部の公演も行われ、まさに彩りに溢れた文化祭となりました。

## ～合唱の部～



本年度はクラス合唱に加え、学年全体での合唱も行うことができました。学年ごとのカラーが押し出された合唱は、教室で画面越しに観賞していた生徒たちにも感動を与えました。

## ～吹奏楽部～



## ～演劇部～



閉会式では、文化祭実行委員長の本田さんから、伝統をつないでいくことについての思いが語られました。置かれた状況の中で「今できること」に懸命に取り組んできた生徒たち。こうした前向きな姿勢もまた、六中の伝統として受け継がれていくことを願っています。